

東松島復興推進員だより(第 28 号)

～地を往きて走らず～

JICA 地域復興推進員(野蒜担当)

齊藤 弘紀

自然災害は日本だけのものではなく、世界で起こり得ることです。2004 年 12 月に、スマトラ沖地震による津波で、インドネシアのバンダ・アチェ市が壊滅的な被害を受けました。また、記憶に新しい災害では、昨年 4 月に、ネパールを大地震が襲いました。今もなお、復旧活動が続いています。

東松島市では震災後、インドネシアのバンダ・アチェ市と協定を結び、震災から得た学びを、バンダ・アチェ市をはじめとしながら、世界の国々と共有する取り組みが進められています。2013 年 11 月、台風 30 号(フィリピン名:ヨランダ)により大きな被害を受けたフィリピンのレイテ島との繋がりもその一つです。

東松島市は、これまでフィリピンの被災地を訪れ、現地の人々と東松島市の経験を共有してきました。例えば、現地被災地での居住禁止エリアの設定が課題となった時、東松島市の土地利用計画が一つの参考になりました。「重要なことは、住民参加型で計画を立て実施していくプロセスである」という東松島市の考えは、現地の人々の共感を得ています。

また、東松島市からフィリピンを訪問するだけでなく、フィリピンからも東松島市へ研修や視察のために訪れています。特に漁業、水産加工業の分野で、野蒜地域の東名漁港牡蠣養殖などの現場を訪れ、漁業者たちとの意見交換や技術について学ぶ機会も多くありました。

今回、は 2016 年 7 月 5 日(火)から 9 日(土)にかけて、JICA が行っている台風ヨランダ災害緊急復旧復興支援プロジェクト運営指導の一環で、フィリピンのレイテ島へ訪問してきました。東松島市からは、本プロジェクトでの国内支援委員となっている東松島市商工会会長の橋本孝一氏、東松島市復興政策課課長の高橋宗也氏の 2 名と、私を含む JICA 関係者 3 名、計 5 名での訪問です。本号では、その時の様子をご紹介します。

＜牡蠣養殖及びミルクフィッシュ加工女性グループへのインタビュー＞

本プロジェクトでは、水産加工を行っている女性グループへの支援も行ってきました。女性グループは約 20 名おり、ミルクフィッシュや牡蠣の加工を行い、収入を得ています。ミルクフィッシュは、骨ごと食べられるように加工され、専用のソースを付けて

販売されています。月に 2、3 回程度、注文に応じて地元スーパーや空港の店などに卸しているそうです。

牡蠣の加工は現在行っていないものの、今後、東松島市とフィリピン間で行われる草の根技術協力の支援を受けながら、販路拡大が期待されています。牡蠣養殖については、本プロジェクトからの直接的支援終了後も、継続して支援を続け、地元レストラン、個別の注文や周辺住民に販売を進めていくそうです。

このような地域コミュニティで行われる、いわゆるコミュニティビジネスは、日本ではまだまだ成功することが難しい状況です。だからこそ、日本の被災地域がフィリピンから学べることもあるのではないのでしょうか。



ミルクフィッシュの加工品



水産加工の女性グループ

〈国内支援委員と現地関係者との意見交換会〉

本プロジェクトの国内支援委員である東松島市のお二人より、復興に係る取り組みや、現在の状況について、行政と民間の視点から発表を頂きました。台風ヨランダ被災地域の参加者からは、避難体制の強化、安全な避難所のさらなる確保、避難の仕組みの強化、子供たちへのこころのケアの取り組み、将来の構造物対策の有効活用などについて、更に東松島市と学びを共有していきたいというコメントや質問が出されました。

また、マニラでも同様の意見交換会を行い、東松島市の復興計画策定プロセスや、合意形成における住民参加、ワークショップの運営について話題が及びました。自治体と住民及び自治協議会の役員組織が機能し、合意形成に努めてきた東松島市で2,000人規模のワークショップ開催を震災の年に実現したことについて、フィリピンの関係者は感心している様子でした。



現地関係者との意見交換会



高橋課長によるプレゼンテーション

〈東松島市とフィリピンの今後〉

私たちは道中、今年完成した RHU(Rural Health Unit)にも訪れました。ここは、台風ヨランダにより壊滅的な被害を受けた医療施設が日本の援助により新設されたものです。常時 2 名の助産師がいるここで、私たちは前日生まれた乳幼児と母親に会うことができました。新しい命を守る為にも、私たちは学び合い、次の世代へ伝えていかなければならないと感じます。

災害はたくさんの悲劇を生みましたが、一方で、世界とつながるきっかけも生まれたのかもしれない。私は、新しい街が創られているここ野蒜地域から、このように新しく培った関係を持続可能な形で地域の方々に伝えていきたいと思っています。



現在稼働中の RHU(Rural Health Unit)



RHU で生まれたばかりの赤ちゃん

【推進員だよりバックナンバー：JICA 東北ホームページ】

<http://www.jica.go.jp/tohoku/enterprise/shinsai/index.html>

以上

JICA は、宮城県、東松島市、宮城大学、東松島まちづくり応援団(NPO)等と共同で「地域復興推進員」を通じた震災復興モデル事業を東松島市で開始しました。このモデル事業では、早期震災復興につながる”市民協働のまちづくり”を支援することを目指しています。ここで得られた教訓や経験を将来の国際協力に繋ぎます。
